

「環境取組」の永続化に向けて

永野 仁士 (ながの ひとし/東阪電子機器株式会社 常務取締役)

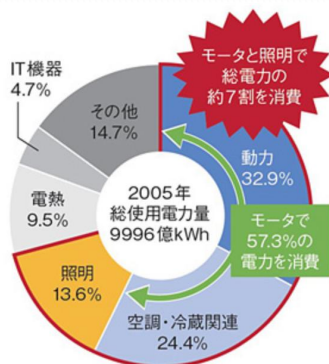
1. 弊社と環境との関わりについて

弊社は創業以来 38 年間「モーションコントロール」をコア技術として、お客様の要望に応じてプリント基板からコントロールユニット、組み込み装置など多種多様な製品をオーダーメイドで開発・製造し続けている老舗ベンチャーモノづくり企業です。実はあまり知られておりませんが、弊社が事業として関連しているモータは、世界で発電される電力の約 60% を消費していると言われております。その為、モータ全体のエネルギー効率を高め、電力消費量の削減することが非常に求められます。つまりは「弊社事業」と「環境（省エネ）」は切っても切り離せない関係にあるのです。

弊社と環境の関わり合い

弊社が使用するモータ機器は世界で発電される電力の約半分を消費。

その為、モータ全体のエネルギー効率を高め、電力消費量の削減することが重要



参照：新機能素子研究開発協会の資料を基に日経エレクトロニクス作成2011年5月2日号

2. 今までの取組について

弊社では今まで 2 つの側面での環境取組を実施してきました。

1 つ目は「省電力」に拘った製品開発の実施です。弊社の製品であるプリント基板やコントローラは直接モータに接続され動きます。つまりは弊社の製品が「省電力」

を実現する事が出来れば、モータ全体の電力量を抑える事が出来ます。その為、自社で製品を開発する際においてはコンセプトの 1 つに「省エネ」を入れる事を必須にしております。数年前に開発した「ePI-06」は従来製品より最大 75% 消費電力を削減することが可能となり、この製品価値が認められ日刊工業新聞に掲載頂きました。

2 つ目は職場における「環境対策」の実施です。

2007 年の ISO14001 取得を契機として自社で何が出来るかを考え、取組を実施してきました。具体的にはエコカー、LED 照明導入による CO₂ 削減です。またそれに併せて運転者の意識を変える為エコドライブ宣言を行いました。その結果、燃費が約 30%UP し、CO₂ 削減を達成する事が出来ました。また大阪テクニカルセンターでは 2015 年蛍光灯照明を LED に変更。更にデ

これまでの取り組み

モーションコントローラの専門メーカーとして創業以来 38 年環境に配慮した製品を開発。

また環境に配慮した職場環境の構築に拘って活動を実施。

□環境に配慮した自社製品の開発 & 販売

- ・モーションコントローラ (ePI-06)
- ・ステッピングドライバ (eTD-24)
- ・ブラシレスコントローラ (eBL-24)
- ・ラズパイ対応モーション (ePI-09)



□環境に配慮した職場環境の構築

- ・2007年 ISO 14001取得 (国内 & 中国工場)
- ・2013年 エコアクション21取得 (国内工場)
- ・2015年 吹田市環境表彰 ごみ減量・再資源化香料者部門 事業所門 受賞
- ・2015年 エコカー、LED照明導入によるCo2削減 (燃費30%ダウン)
- ・2015年 デマンド監視装置導入によるピーク電力抑制 (電力量30%ダウン)



経営者「環境力」大賞を受賞して

マンド監視装置導入によるピーク電力抑制の取組も開始しました。近年の夏は予想以上に暑く、昨年度より高い目標を達成することは非常に困難でしたが、「こんな時だからこそ目標達成」を合言葉に各フロアでこまめに照明・エアコンの消灯を実施。また離席時のハンダコテ・計測機器の電源OFFやサーキュレータを効率よく利用し快適な作業環境（温度）の実現も実施致しました。

3. 「第2創業」における環境取組の加速

弊社は創業35年を迎える2018年度を第2創業期と位置づけ、弊社が100年先の未来も世の中から必要とされる企業となる為に、何が必要か役員を中心として検討しました。新たな経営理念「温故創新」の策定、中期経営計画、SDGsにおける目標設定（No8「働き方も経済成長も」）をし、社会的価値実現を目指す企業になること明文化しました。またそれに伴い、CSV活動を加速することも方針として決定致しました。

またこの方針決定には私自身の海外での経験が影響しています。私は2009年から5年間海外に駐在し、そこで環境配慮型の液晶ディスプレイ企業や台湾政府との協働による環境プロジェクトに関わってきました。そこで感じたのは日本の取組の遅れです。それを少しでも変える事が重要だと感じ、弊社が中小企業のモデルになることを目指すことを決定致しました。

4. 現在の取組について

現在は、自社製品だけでなく、他社からの依頼を受けて開発・製造するODM（Original Design Manufacturer：委託開発）製品においても、出来る限り環境に配慮した製品開発にむけて、依頼先企業と打合せをしながら取り組んでおります。具体的に

は濾過装置や監視用カメラコントローラ等で既に実現する事が出来ました。また社内では「環境プロジェクト」を立ち上げて、ペーパーレス化、Walking月間の開催、廃棄物の再利用、グリーン調達を進めて社員の環境意識を図っております。これらの取組が認められ、環境省「環境人づくり企業大賞」奨励賞の受賞や経済産業省「健康経営優良法人」獲得、同省「はばたく中小企業300社」認定を頂く事が出来ました。

5. 今後の取組について

今後は、更に環境に注力した開発に力を入れていきたいと考えています。また1社では出来る事が限られている為、関連メーカーや社外パートナーと積極的にコラボレーション実施していきたいと考えております。その第1弾として4社のメーカーがタッグを組み「浄化槽の遠隔モニタリング」の実証実験を開始致しました。この仕組みが出来上がれば、従来、人が自動車等で遠距離を移動しながら検査していたことが必要なくなる為、CO₂削減が可能となります。またこの仕組みを応用して他の環境機器の開発も実施していきたいと考えております。

併せて社員が自主的に「環境に関する取組提案」をしてくるような企業文化を作り上げていきたいと考えております。その為には今まで以上に環境意識を高める為の教育が重要であり、今後そのような場を定期的に設けていきたいと考えております。

そして2030年までにはSDGsの17項目全てに関して直接的でも、間接的でも何かしらの関わりを持っていきたいと考えております。

